

2026

園だより



ArteKodomotoKi

9

社会福祉法人 種の会
幼保連携型認定こども園
アルテ子どもと木幼保園
〒164-0001 中野区中野1-59-5
Tel 03-3365-0602



ホームページ



Instagram

お知らせ・おねがい

・台風の伴う風災害時の対応について

中野区が発令する避難情報が「警戒レベル3（高齢者避難）」以上、または中野区内に乗り入れているすべての路線の計画運休決定の場合が臨時休園の基準となっております。保護者の方にはチャイルドケアアプリのメール機能を使ってお知らせ致します。休園や保育途中の急なお迎えを依頼することもありますので、アプリのメールにすぐに気付ける設定への変更をお願い致します。

※アプリのバージョンUPの連絡がきた際は、随時更新をして下さい。アプリの不具合がある場合は、再インストールをお願いします。その際は事前にお渡ししております個別のアクセスコードとパスワードが必要です。

・園には大人用の傘と子ども用の傘を用意しております。自転車置き場までの雨具としてご利用下さい。

・門の暗証番号の変更

安全管理の為、10月1日午後より門の番号を変更いたします。新しい番号は10月1日の午後、チャイルドケアアプリメールにてお知らせ致します。

・運動会は、10月10日（土）午前中 桃園第二小学校体育館で開催予定です。校舎建て替えの為、これまでと**場所が異なります**。アルテから南へ進み（セブンイレブン方向）徒歩2分の場所になります。

会場変更に伴い、**駐輪場の準備ができません**。自転車でお越しの方は、恐れ入りますが各自で駐輪場所をお探しいただきますようお願いいたします。ベビーカーはアルテのベビーカー置き場をご利用下さい（1歳児クラスまで）※運動会への参加は2歳ピコ組～5歳ナノ組となります。

・おねがい

プール遊びは終わりましたが、これからも暑い日には 水遊びやシャワーをします。タオルや着替え、連絡簿への記入等、忘れ物のないようお願いします。

September 9 2026						
sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
		1 引き取り訓練	2 園見学会	3 運動あそび サーキット体験	4	5
6	7 音楽あそび 発育測定 音楽体験	8	9	10 運動あそび	11 アート体験	12
13	14 音楽あそび	15 お話びっくり箱	16 園見学会	17 運動あそび	18	19
20	21 敬老の日	22 国民の休日	23 秋分の日	24 運動あそび 園見学会	25 誕生会	26
27	28 音楽あそび	29	30			
※園見学会、サーキット体験、音楽体験、アート体験は地域にお住まいのご家族への子育て支援として開催しています。						

今月のテーマ：子ども達の興味関心から生まれたエピソードです。



卒園記念樹の百日紅

夏から初秋に 100 日花を咲かせる百日紅^{サルスベリ}、空の高さや夕暮れの虫の音にも少しずつ秋の訪れを感じる季節となりました。

子ども達は、小さな発見を一つひとつ楽しんでいます。日々の暮らしの中で季節の変化を感じ、自然の恵みに目を向けることは、子どもの豊かな感性を育むことにつながります。大人が見過ぎてしまうような自然の変化に気づかせてくれるのも子ども達の素敵な力ですね。親子で小さな秋を探してみるのもよいかもしれません。

秋は自然の恵みが豊かな季節です。たくさんの気づきや感動を重ねながら、実り多い毎日をご過ごしていきたいと思います。

園長 山田寿江

土の中から贈りもの ～ウンチの研究?!～

ある日、屋上園庭で子ども達が見つけた小さな土の盛り上がり。

「何これ?」「誰の仕業?」不思議に思った子ども達が、観察を続けると、それがミミズの糞であることが分かりました。ミミズは土を食べ、その糞は植物を育てる栄養豊かな土になるそうです。

正体不明の土の盛り上がりの謎、自然の不思議を仲間や保育者と共に考え、調べ、試しながら学びを深めていく中で、「ミミズさん」を想う生きものへの愛着や命の大切さを感じる活動にもなりました。

この実践を松元先生が論文にまとめ、ソニー教育財団「科学する心を育てる」に応募しました。今回で6回目の応募で、毎回子ども達の学びの足跡をたどる興味深い内容となっています。単なる知識の獲得ではなく、子ども達との関係性の中で育つ探求のプロセスです。



「なぜ」が未来を育てる

学びは「答えを知る」ことからではなく「なぜ?とを感じる」ことから始まります。先月実施のECEQ（幼児教育の質向上の取組み）で、探究活動は幼児教育そのものであること再確認しました。子ども達は、遊びの中で、比較し、予想（仮説）し、試し、分析しながら学んでいます。大人が用意した「正解」を覚えるのではなく、自分で考えた過程そのものが学びとなっているのです。

「何して遊ぼうかな」と考える時間や、「何もしたくないな」と心を休める時間も子どもにとっては大切です。夢中になって遊ぶことだけでなく、一人ひとりが自分のペースで過ごし、自分らしく学びに向かえる環境を整えることも私たち保育者の大切な役割だと考えています。

もしもに備えて～防災は日々の積み重ね～

近年は、地震や台風、線状降水帯による豪雨などなどの自然災害が国内外で多く発生しています。園では毎月の避難訓練の他、災害時の対応をまとめたBCP（事業継続計画）を作成し、随時見直しを進めています。子ども達の安全を守るため、万が一の際にも安心して行動できる体制づくりに努めています。

9月1日「防災の日」は、引き取り訓練です。災害はいつ起こるか分かりません。子ども達の大切な命を守るため、訓練を通して保護者の方々と防災への備えについて考える機会になればと思います。ご家庭でも「もしものとき」のことをご家族で話題にしてみてください。

「どう？美味しい？」

主幹教諭：中村

1F ホールで4、5歳児クラスの友達が、給食の先生とクッキングをしています。事務所にまで良い匂いがしてきて、見に行くと「焼きそばだよ」「スコーンだよ」と教えてくれます。

出来上がった物を、事務所まで持ってきてくれた時の事、口に入れてすぐに「美味しい？」と顔を覗かせて聞いてきたAくん。2種類の味付けがあったので「こっちの方が先生は好きかな」と伝え、「こっちの方が人気だったよ」と教えてくれました。

様々な体験を通して、生産から消費までの一連の食の循環や、食べ物を無駄にしないことについての配慮などに、意識を持てるような様々な食材に触れる機会を取り入れています。

2階の畑はもちろん、プランターを使って野菜や花を育てています。自分たちが水やりをし、大きくなっていく過程を見て収穫し食べるという経験は、命を大切に作る気持ちなどを育みます。自分で作ったり、育てたりした物の味は格別で、普段苦手で食べない児も口にしてみる姿がみられます。

食と命の関りを実感したり、体験したりできる環境を作っていきたいですね。



みんな大嫌い！

主幹教諭：黒木

引っ越しで幼児クラスに転園してきたAさんは毎日泣いています。赤ちゃんの時から通い慣れた園を離れたのですから仕方のないことです。先生も嫌いだし、新しいお友だちも嫌い「みんな大嫌い〜」と涙をポロポロ流します。

小さな子のお世話が好きなようなので、乳児のクラスを巡ることにしました。2歳クラスは洗濯ごっこや綺麗な色水・フワフワの泡遊び、1歳クラスは小麦粉遊びやミニサーキットなど、五感を刺激する遊びをたっぷり堪能して、各クラスの先生達にも可愛がられて、涙が止まる時間が少しずつ増えてきました。

そんな様子を見て、同じクラスBさんが「黒木先生はどうしてAちゃんが好きなの？」と聞いてきました。「あら？忘れちゃったの？」Bさんも2歳の頃はよく泣いて事務所にいた話をすると、思い出したようにハッとして、照れくさそうに「忘れちゃった」と言いました。

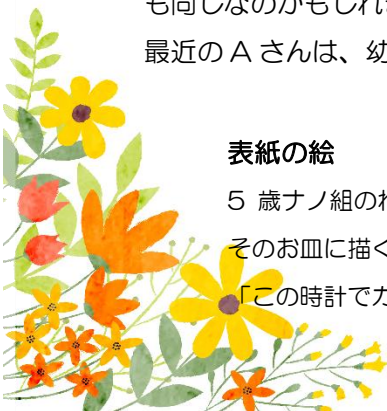
不安は、泣き疲れて解消されるものではなく、安心できる場所なんだという認識が少しずつ積み重なって薄れていくものです。一歩前へ踏み出せるのは、自分を大切にしてくれる人が見守っていると感じるからこそです。やったことないけれどやってみようとか、今日も頑張ろうと思うパワーの源は子どもも大人も同じなのかもしれません。

最近のAさんは、幼児クラスで友達と楽しそうに遊ぶ時間が増えています。



表紙の絵

5歳ナノ組のれいくんが描きました。今年の年長児はカレー皿を作っています。現在は素焼きまで進みました。そのお皿に描く模様のラフ画です。時計が大好きなれいくんは、様々な時間を針指す時計をいくつも描きました。「この時計でカレーを食べたら何時かわかるでしょ」と嬉しそうにイメージを膨らませていました。



0 Ato

びりびりぽっとな

0歳児室には保育者の手作り玩具が色々あります。マジックテープを剥がしたり、ストローやボールを穴に入れるぽっとな落としに夢中になったりと、手先に集中して遊びます。入ると保育者の方を見てばちばちと嬉しそうに手をたたく姿も。最近では友達との関わりも少しずつ増え、主張が強くなってきたこともあり、ボールを取り合うやりとりも見られるようになってきました。Aくんはボールをとった後に少し険しい表情をすると友達の方にボールをそっと返しました。言葉はまだありませんが、その手の動きから「どうぞ」と伝えているような姿に思わず心があたたかくなりました。また、ボール落としを想定してつくった穴の開いた箱は、“入れるもの”から“押すもの”にも大変身。食卓椅子までも手押し車に早変わりさせてしまうような子ども達ですが、このような段ボールも活用しながら子ども達の“立ちたい”、“歩きたい”という欲求を少しでも満たせるよう工夫しています。できることがどんどん増えていく子ども達。成長がますます楽しみです。



たべもの

感触遊びが好きな0歳アト組の子ども達。最近では野菜の切れ端や高野豆腐など調理前の食べ物にも触れて遊んでいます。最初は手にとり普段食べているものとは違う形状のものを不思議そうにじーっと見つめます。特に低月齢の子は感触を確かめようと繰り返し口に入れようとする姿もありますが、子ども達は手でちぎってみたり保育者の真似をしてにおいを嗅いでみたり、五感でたくさんのことを吸収しています。Bくんは手先に集中しながら水に浸して柔らかくなった豆腐をちぎちぎ……。その後は「まんま」と口をぱくぱく。そのまま腕を伸ばして保育者の口元にもどうぞと、一緒に食べる真似を楽しみます。今後も五感をたくさんつかいながら色々なものとの出会う経験を大切にしていきたいと思います。



1 Ato

影？おばけ？

光遊びをしていると壁に映った影を見つけます。「おばけいた」というMさんの一言から、子ども達は影を『おばけ』と呼ぶようになりました。光遊びをするときには、タッチしたり「怖い」と言って保育者の後ろに隠れたりして影と関わります。吊るしたカーテンに映った影を捕まえようとしますが、カーテンしか捕まりません。友達と挟み撃ちで捕まえると捕まえた感覚があったようで「捕まえた」とカーテンを握りしめます。捕まえた影を見ようとゆっくりと手を開くと、そこにはカーテンしかありません。不思議そうな表情を浮かべながらもまた壁に映った影を捕まえようとしていました。

また、日向に映った影を触ると「このおばけあったかい」と影の温度を味わったり、カラーセロファンで遊んだ時には「おばけ青い」と色に注目してみたりと子ども達はただ『おばけ』を捕まえようとするだけでなく、温度や色にも注目しながら関わりを楽しんでいるように感じました。



それぞれの好きな感触

片栗粉や小麦粉を使って感触遊びを楽しんでいます。

粉の状態を触るとサラサラとする感触を気に入り、手でこすったり上から落としたりしながら遊びます。粉に水を足すと固まり、今度はモチモチとした感触に変わります。握って潰したり引っ張ったりして感触を楽しみながら粘土のように遊びます。Rくんはモチモチとして感触が苦手だったのか「もっともっと」と水を入れたがりです。そこで更に水を入れると、今度はドロドロとした感触に変わります。固めるように握ったり、手で押してみたりしながら感触を楽しみます。感触が好きじゃなかったのか、手にくっつくのが嫌だったのか、あまり触りたがらずスプーンなどで触る子もいました。

少し時間が経つと乾いてきて、表面がざらざらとするものも出てきます。そのザラザラが気に入って遊ぶ子もいたり、自分の好きな感触を探しながら楽しんでいました。



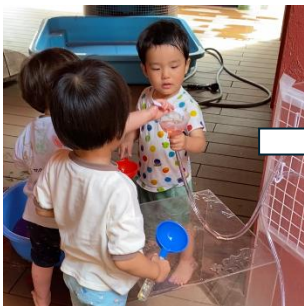
2 Pico

水を入れる人、水を待つ人

テラスで水遊びをするとき、麒麟の木に透明チューブを巻き付けて、先端にはジョウゴを付けて遊びました。七夕制作のときにジョウゴとチューブを一度使っていたので、子ども達も扱いはもうわかっています。

たらいからじょうろや柄杓で水をすくってきて、ジョウゴに入れる人、「ここから出てきた！」と長いチューブの反対側に出口を見つけて水を待つ人に自然と分かれしました。

少しすると「あれ、出てこない」とSくん。「誰か水入れて！」とAくん。それを聞いて「早く入れなきゃ」とTさん。遊びの中で自然と役割分担をしていました。みんなで水を汲んでくると、またチューブから水がチョロチョロ出てきて、それをまた柄杓や容器に入れてジョウゴから注いでいました。



どうやったら水が流れるかな？

こちらでは格子にホースを引っ掛けてくねくね道にピンクの色水を流していました。U字になるところがあり、ジェットコースターのようなチューブです。ジョウゴに水を入れていきますが、U字の折り返し地点から水が進みません。すると、Kくんがどうやったら水が流れるか試行錯誤し始めます。チューブを揺らしてみたり、柄杓の持ち手で水をつついてみたり……。でも揺らしても、つついて、水は流れていきません。

そんな中で、高く上げると流れることを見つけました。それを見ていたYくんも「もっとあげて！」とホースを持ってKくんに伝えます。「わかった！」とKくんがホースを上げるとチョロチョロと水が流れていきました。

ホースの中を色水が流れていき、無事に出口まで水が流れるとみんなで大喜びです。そのあとも水が滞るとその部分のホースを上げてどんどん流していました。

3 Nano

キラキラ探し

お集まりの時間に、友達のキラキラ（素敵なところ）を発表しています。子ども達が元気に手を挙げました。ほぼ全員の手が挙がります。



Aちゃん「ブロックにキラキラがありました。」

Bくん「〇〇くんと遊びました。」

可愛らしいコメントに場が和みましたが、友達のキラキラ探しはちょっと難しかったようです。友達の素敵なおところを見つける経験が少なく、キラキラの意味も分かりづらかったのかもしれません。翌日以降もキラキラの発表になると元気に手が挙がっていました。やはり、「〇〇ちゃんと遊んだのが楽しかったです。」という意見が続きます。

そこで、保育者が子ども達のキラキラを発表しました。

保育者「いつも手を挙げて発表するみんなが素敵です。」

時には、前に出てくると何を発表するのか忘れることもあります。意欲的な子ども達の姿が素敵だと思いました。

さて、数日たちました。いつものように友達のキラキラの発表になった時、**Cちゃん**が手を挙げました。

Cちゃん「Dちゃんが、おままごとを上手に片付けていました。」

ついに出ました。キラキラ第一号です。友達のキラキラを発表したCちゃんもキラキラでした。



月曜日笑ってる〜♪

『月火水木金土日のうた』を歌っています。歌い始めの頃は歌詞が難しそうでしたが、曜日の書いてあるカードを使うとイキイキと歌うようになりました。最初は保育者がカードを持っていたのですが、試しにカードを持つ役目を子ども達に頼んでみました。すると、毎回「やりたい！」と意欲満々に手を挙げ、元気いっぱいな歌声が響いています。曜日を英語で歌うことにも、いつかチャレンジしてみたいと思います。



海は青だよ

お集まりで「海をつくりたいね」と話したことがありました。Eちゃんが「海は青だよ。」と海の色を教えてくださいました。青色系の色をハサミでチョキチョキと切っていると「僕も」「私も」と子ども達が集まってきました。Fちゃんが「白もあって良いんじゃない？」と言いました。波の色だそうです。ハサミで切っていると、海にいる生き物が話題にあがりました。イルカ、ペンギン、くじら……。 「ワニは？」の声に「ワニは海にはいないね。」と笑いにつつまれました。どんな海ができるか楽しみです。



4 Nano

なりきるのがって楽しい！

最近子ども達のなかで変身コーナーで遊ぶのがブームになっています。ヒーローの仮面を被ったり、ドレスを着たり、ティアラをつけてごっこ遊びを楽しんでいます。

MさんとKさん、Hさんが変身コーナーで遊んでいた際に、「クッキー屋さんをやりたい！」とクッキー屋さんを始めました。しばらく、3人がクッキー屋さんを楽しんでいると普段はあまりごっこ遊びにはこないTくんが変身コーナーに来て「クッキー屋さんじゃなくて、魚釣りごっこをしたい」と言いました。Tくんは以前休みの日に家族で魚釣りをしにいった事が楽しかったようでそれを園でもしたいといった様子でした。



それを聞いた3人は「魚……、海とか作る？」「海だったら人魚になりたい！」「人魚もいるんだったら海賊もいるよね？」とどんどん、遊びのイメージが広がっていきます。先ほど魚釣りごっこをやりたいと言っていたTくんも「海賊ごっこやりたい！」と言って海を舞台にしたごっこ遊びを楽しんでいる様子がありました。そのうちその4人を見ていた他の子も入ってきて「じゃあ、海賊はこっちから来てね！」「人魚はここで泳ぐよ！」「お姫様は海賊の方には行ってはだめだよ」と自分達で役割を話して決めながら遊ぶ姿に4歳クラスの子どもの成長を感じました。

一緒にやるのがって楽しいね

いつも近くで5歳さんがボードゲームをやっているのをじっと見ていたり、5歳さんに教えてもらいながらルールを覚えた様子の4歳さん。ある日、TくんとYさんが「先生、一緒にハリガリやろうよ」と声をかけてきました。一緒におこなうとTくんもYさんも「負けたー！！」「勝ったー！」とゲームの勝ち負けを楽しんでいました。



そんな2人を少し離れたところで見っていたMさん。それに気が付いたYさんが「Mちゃん一緒にやる？」と声を掛けました。「あんまりやったことないから（ルールが）わからない」とMさんが答えると、「大丈夫だよ！やり方教えてあげるからね」とYさんが答えて同じテーブルでゲームを始めました。

最初は、わからなくてYさんの説明を聞きながらやっていたMさんでしたが、教えてもらってルールがわかると「ねえ、一緒にもう一回やろうよ！」と笑顔で友達と話していました。その後は、子ども同士で「一緒にもう一回！」という声が何度も聞こえてきました。

※ハリガリ (Halli Galli)：同じ種類のフルーツが合計5個になった瞬間にベルを鳴らしてカードを取り合う、ドイツ生まれのスピード系カードゲーム

5 Nano

勝ちたい！！

子ども達はドッチボールに夢中です！昨年の5歳さんがドッチボール大会で優勝したことを見ていて、自分達も頑張りたい！という思いが強くなったようです。ホールで遊ぶときには「ドッチボールがいい！」という声が女の子からも男の子からもたくさんあります。最近では、ルールをしっかりと覚えてきた子も多く、作戦を考えて勝ちを目指しています。



“自分がやりたい”という思いが強いAくんが、ある日、元外野になりました。元外野はボールを当てても中に戻ることはできません。Aくんは外野にボールが転がってくると、Bくんへ「どうぞ」と手渡しました。元外野ではない友達にボールを渡さなければいけないという決まりはありません。でもルールを理解し、何度もドッチボールを経験する中で、勝つためには仲間をコートに戻す必要があることに気が付いたようです。勝つために自分の“投げたい”という気持ちを抑えて行動する姿は、これまでのAくんには見られない姿でした。ドッチボール大会までは、まだまだ時間があります。勝つための作戦を考える中で、自分の意見を伝えたり仲間の意見を受け入れたり、様々な試行錯誤をしてほしいです。そして勝つこと以外の貴重な経験もできることを期待しています。

野菜で実験

アルテの畑では今年も野菜がたくさん採れました。食べるだけでなく、採れた野菜で実験や観察画も描きました。秤を使って重さを量ったり、メジャーを使って長さを測ったり、透明な容器に水と一緒にに入れて浮き沈みを見たりと様々な経験をしました。

その中でも特に興味を示したのが水の中での浮き沈みです。トマト、きゅうり、なす、ピーマンの4種類の野菜は浮く野菜と沈む野菜があり「ふしぎ～」と目をまん丸くしていました。「なすとピーマンは軽いから浮くね」と嬉しそうに話していましたが、きゅうりが浮いてトマトが沈むということに「なんで？」という疑問が生まれました。「きゅうりとかピーマンが寄りかかっているからかな？」「トマトは穴が空いて水が入ったからじゃない？」「水分があるからだよ」と色々な意見を伝え合いながら考えていました。これからたくさんの実験をして色々な発見ができると思いいます。



頭の中のアトリエ、フル稼働



アトリエで廃材を集めていることを知った5歳ナノ組の A さんから「ヤクルトの容器で人形作りたい」とリクエストがあり、毛糸やハギレ、ボタンなどの廃材も使って人形作りが始まったのが7月末のこと。

作り方も見本もない中で子ども達が自分の頭の中にあるイメージを形にしていく様子は、私にとって興味深いものでした。

ひとつをじっくり仕上げる子もいれば、コツを覚えて量産する子もいるし、完成した人形はもちろん、作り方にも個性が表れています。友達のすてきなところは素直に「いいね。私もやってみよう」と取り入れ、インスピレーションを得ながらどんどん進化しています。

手元にある廃材で小さなアイスや綿あめなど食べ物を作って持たせようとするなど人形以外のアイテム作りも広がっています。また、マシュマロみたいな緩衝材で赤ちゃんを作り、透明パックで

作ったベビーカーに乗せて遊ぶ姿もあり、ちょっとしたベビブーム到来といったところです。

初めは5歳児だけで行っていたのですが、飾ってある人形を見て年下の子ども達も作りたくなったようです。

「教えて欲しいことがあったら私に聞いてね」

年長児の頼もしい言葉も聞かれました。

3・4歳児の子ども達にはあらかじめ切っておいた毛糸やハギレを用意。3歳児の B さんは緩衝材を頭に見立て毛糸を一本ずつ貼り始めました。根気がいりそうだけど大丈夫かなというこちらの心配をよそに、自分が納得のいくまで丁寧に貼りつけ、キラキラがついたネット生地をまとうせると顔も同系色のサインペンで描いて完成させました。同じクラスの友達が作った人形と並べると、楽しそうにお喋りをしているかのように見えてきます。

4歳児の T くんは人形に名前をつけました。

写真下の左から「ほっぺちゃん」「めがねちゃん」「にじいろくん」

「にじいろくん」は容器に何色もの毛糸がきちんと詰めてあり、それが名前の由来のようです。

このような子ども達の姿や出来上がった人形から、彼らが頭の中のアトリエをフル稼働させて、廃材から大事な何かを見つけ、それぞれのストーリーを紡いでいることが伝わります。

次はどんな展開になるのか？どんな素材や廃材をリクエストしてくれるのか。それも楽しみです。

(文責：雨宮)



8月7日は「ハナの日」 鼻の役割を考える中で、匂いと味の不思議を感じて欲しいと思い、先生達に協力してもらいました。

その1 匂い・味をあてる

まず、ドリップコーヒーの封を開けて、目をつむった M 先生に匂いを嗅いでもらおうと、「コーヒー！」と即答でした。次に、O 先生に目をつむって鼻をつまんだ状態で、パック飲料を飲んでもらいました。それが何かを答え終わるまで



は、鼻をつまんだままです。パッケージを見て答えを知っている子ども達は答えに悩む姿を見てニヤニヤしながら言いたくなるのを我慢して見つめます。

- ・「甘い、果物っぽい。ぶどう？」……答え：リンゴジュース
- ・「さっぱりしているからお茶だね。苦い？麦茶？」……答え：麦茶
- ・「ザラザラしていて、知っている感じだ。野菜ジュース？」……答え：トマトジュース

O 先生が鼻をつまむ手を離れた瞬間「これかぁ～匂いが分かった方が美味しい」との感想でした。味覚には臭覚が関わります。美味しく食べるためには鼻の健康を維持することが大切です。

その2 鼻の通りを比べてみる

片鼻ずつ抑えて、“吸って～吐いて～”と息をしてみました。ほとんどの子ども達は違いを感じなかったようですが、中には「いつもコッチ（片方）が詰まっている」と左右差に気づく子もいました。左右の鼻の穴は均等に息が通っているようで、実際には片方ずつ粘膜が充血し、交代で休んでいます。これは「鼻の周期」と呼ばれる仕組みで、粘膜の乾燥や傷を防いでくれています。



子ども達から飛び出した“経験”の声

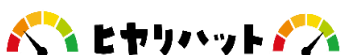


「鼻血」のインパクトは大きいようで、鼻の役割と言えど？の問いかけに、真っ先にこの言葉が出てきました。そして、「転んだ時に出了」「ほじると出る」「そんなことしてないけど出了」と経験が語られました。また、鼻水がばい菌を防ぐ役割があることや、それが乾いて鼻くそになることも子ども達の口から出てきました。すでにある経験や気づきを、沢山教えてくれましたが、“鼻血が出たら上を向く”と思っていた子が多くいました。上を向くと喉に下がった鼻血を飲み込んで気持ち悪くなることがあります。正しい止血方法は、“下を向いて 5-10 分しっかり小鼻を抑える”です。ティッシュなどを詰め込むと粘膜を傷付けてしまったり、取り出すときに再度出血させてしまったりするため詰め込むことはやめましょう。

おすすめの絵本



発育測定	9月 7日 (月)
0歳児健診	9月 2日 (水)
	9日 (水)
保健指導予定	骨・ケガのはなし



0・1歳は、つかまり立ちが増え、視界が広がる楽しい時期で保護者の方もヒヤヒヤしていませんか。まだ筋力やバランス感覚が育つ途中のため、手が滑ったり不意にしゃがんだりして、棚や机に口元をぶつけやすくなります。何か挑戦しようとしている動きのときは、動きを制限しすぎないように、大人がすぐに助けられるように見守っています。



食育だより

We want to cook delicious food



朝夕の心地よい風に、夏の終わりが近づいてきたと感じるこの頃。季節がだんだんと秋に移り変わっていきますね。8月はミニトマト、なす、きゅうり、ぶどうなど当園で育てた新鮮な旬の味覚を楽しみました。9月は夏の食材と秋を感じる食材が給食に登場します。季節の移り変わりを子ども達と感じたいと思います。

2歳ピコ組 「そぼろ納豆」

みんながいつも食べている給食はどんな風につくるの?という疑問にお答えして、子ども達の目の前でそぼろ納豆を作りました。人参の皮をむいて千切りに。次は小松菜、「どんな音がする?」と先生が声をかけるとみんな話をとめて耳を澄ませます。静寂の中にかすかに響く野菜を切る音。切った野菜はぐつぐつ沸いたお湯のなかへ。柔らかくなったらざるにとって絞ります。納豆とそぼろをよくかき混ぜたら納豆の香りがしてきました。そこに野菜を入れて、醤油をくわえて、先生が味見をしてくれます。「おいしい」の言葉を聞いて「そぼろ納豆」をみんなのもとへ。普段野菜の苦手な子も、暑さで食欲の落ちていた子もこの日は完食。「おいしい」「おかわり」の声がたくさん聞こえました。



4・5歳 旬のとうもろこし

大量のとうもろこしの皮むきを子ども達と行いました。「かたーい」「黄色が見えた」「ひげもとの?」とそれぞれ発見がありました。目の前で焼き上げたとうもろこしは香ばしいにおいで、子ども達は美味しそうにほおばっていました。



防災の日

1923年に発生した関東大震災で、死者・行方不明合わせて10万人を超える被害が出ました。防災の日は、この震災を教訓にこのような悲劇を繰り返さぬよう、防災への意識・準備を見直す日です。当園でも、9月1日に非常食の提供と、引き渡し訓練があります。昼食、おやつでは普段と違った食事を体験し非常時に備えたいと考えています。子どもによっては食べづらさもあるかと思います。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

9月の旬の食材

枝豆、オクラ、かぼちゃ、さやいんげんとうがん、ちんげんさい、とうもろこし
なす、ピーマン、さつまいも、さといも
あじ、さけ、さば、かれい、梨、柿

9月の行事食

10日(金) 郷土料理(埼玉県)

＜昼食＞ゼリーフライ

＜おやつ＞やきびん(ごはんのおやき)

24日(木) お月見(秋の実りを盛り込みました)

＜昼食＞うさぎごはん、鶏肉の照り焼き、

さといもの含め煮、のっぺい汁、りんご

＜おやつ＞うさぎのスイートポテト

25日(金) お誕生日会

＜昼食＞食パン、さけのコーンフレーク焼き、コールスローサラダ、かぶとベーコンの豆乳スープ

＜おやつ＞お誕生日ケーキ(柿のブラウニー)

郷土料理はゼリーフライ

スペシャル給食は1歳児クラス担任の悠太郎先生に教えてもらった埼玉県のゼリーフライです。

悠太郎先生にインタビューしてみました

出身地の埼玉県の郷土料理であるゼリーフライを知ってほしい

「ゼリー」と聞いてデザートだと思うが、実は全然ゼリーと関係ないそう。悠太郎先生は子どものころ、お菓子のゼリーではなくてショックを受けたとのこと。

さあ、当日の子ども達の反応が楽しみです。

